

美郷町中学生海外研修



今年度の中学生海外研修が、1月6日から13日の日程で実施されました。昨年度までは夏休み期間中の実施でしたが、部活動などの影響を考慮して今年度は冬休み期間の実施となりました。

参加者は町内の中学校1年生と2年生の17人。オーストラリアの子どもたちと一緒に遊び、ホームステイを通して交流を深めてきました。

今年度の研修内容と4人から寄せられた感想文をご紹介します。

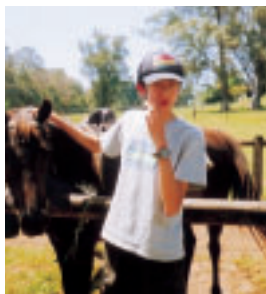


「オーストラリアの魅力」

下田 和樹

ファームでの体験が一番心に残っています。現地の子どもたちとの交流の時、最初は恥ずかしくて返答に時間がかかってしまいました。でも、相手が積極的に話しかけてくれたので、すぐに打ち解けることができました。伝えようという気持ちを強くもって積極的になることが大事だと思いました。

ファームでの最終日の朝、目の前に広がる自然をしっかりとカメラのフィルムに収めました。シドニーの大きな街の様子とはまた違うオーストラリアのよさ…人のやさしさ、緑の豊かさを感じることができました。初めてのことがたくさんあったこの旅は、絶対に忘れられません。



「オーストラリアの文化にふれて」

富樫菜々子

今回の研修で私が一番楽しみにしていたのは、オーストラリアの人と英語で会話する事でした。初めはなかなか話しかけることができなかつたけれど、身ぶり手ぶりを使って少しずつコミュニケーションをとる事ができました。ホストファミリーとの会話は難しく、全て聞きとれませんでした。でも「伝えたい」という思いで単語を並べてみたら、ちゃんと伝わったのでとてもうれしかったし、少し自信がついたように思いました。

日本とは違う文化や習慣に触れ、オーストラリアの良さをたくさん発見すると共に、日本の良さを改めて感じる事ができた一週間でした。



ファームで地元の子どもたちと交流

研修の前半は農場での生活です。オーストラリアの1月は夏真っ盛りで、学校も夏休みということなので今回は学校訪問ができません。そこで、農場に地元の子どもたちを招待し、一緒に遊びながら交流を深めることにしました。

7日の朝、シドニー国際空港に降り立った一行は、バスでシドニー郊外の農場へ移動。ここで地元の子どもたちと一緒に昼食をとりました。みんな緊張してしまい、「マイ、ネーム イズ …」と自分の名前を教えるところまではできて、なかなか会話が続きません。でも、カヌーと一緒に遊んだり、英語のレッスンを受けてたりしているうちに緊張も少しほぐれ、会話もできるようになってきました。

家族の一員となってホームステイ

オーストラリアの気候や英語に少し慣れてきた9日、いよいよホームステイの始まりです。ホストファミリーはどんな人たちだろう、うまく話せるだろうか、など不安もあつたようですが、温かく迎えられる楽しく過ごせたようです。ショッピングや海水浴などのお楽しみだけではなく、子守りや留守番といった家事などをこなし、家族の一員としての役割を果たした子どもたちは、一回り成長したように見えました。

期待と不安を抱いての出発でしたが、人との出会いの素晴らしさを感じ、少しぐらい言葉が分からなくても思いは通じるという自信もおみやげに帰国しました。



「鮮やかな言葉」

皆川 奏絵

私が自分の荷物の整理をしていると、ホストファミリーの姉妹が私の小物を見て「かわいいね」と英語で話しかけてきた。私も彼女たちの小物がかわいいと伝えようと思ったが、今の私の表現方法で、彼女たちにきちんと私の気持ちが伝わるのかが不安になった。

そこで私は彼女たちの言動を観察してみた。すると彼女たちは言葉では足りない部分を表情で補っている事が分かった。日本ではなかなか身に付かない技だ。そう思える程、彼女たちの表情は鮮やかだった。

今回の研修では、そんな日本では学べないような事がたくさん学べた、とても充実した研修だった。



「オーストラリアでの思い出」

照井 真穂

「外国人と上手く話せるだろうか…」こんな不安を抱いて始まったこの研修。ファーム滞在中に現地の子どもと会っても、緊張して少ししか話せませんでしたが、ホームステイをしている内に、自分から積極的に話しかける様になりました。向こうでは父の日が9月にある事や、ビーチで結婚式を挙げたりすると聞き、驚きました。英語が苦手な私でも、素敵な時間を過ごせたのはホストファミリーのおかげです。人の優しさは国を越えても同じなんだと実感しました。

今回の研修では、オーストラリアの良さに触れ、日本の良さも見つめ直すことができました。今度は他の国の良さも見つけてみたいです。

